

景況レポート

(5月分・情報連絡員 80名)

DI値は-21.2でわずかに上昇

～節電対策等により一部業界に持ち直しの動き～

【概況】5月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが13.8%(前月調査13.8%)、「悪化」が35.0%(同40.0%)で、業界全体のDI値は-21.2となり、前月調査と比較して5.0ポイント上回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-25.0で前月調査(-15.6)と比較して9.4ポイント下回った。また、非製造業全体は-18.7で前月調査(-33.4)と比較して14.7ポイント上回った。

製造業においては急激な円高の影響などの不安材料があったことや受注が低迷したことなどが、下回った要因。また、非製造業では依然好調な自動車販売に加え、節電・エコ商品需要が高まっていることが上回った要因とみられる。

(回答数:80名 回答率:100%)

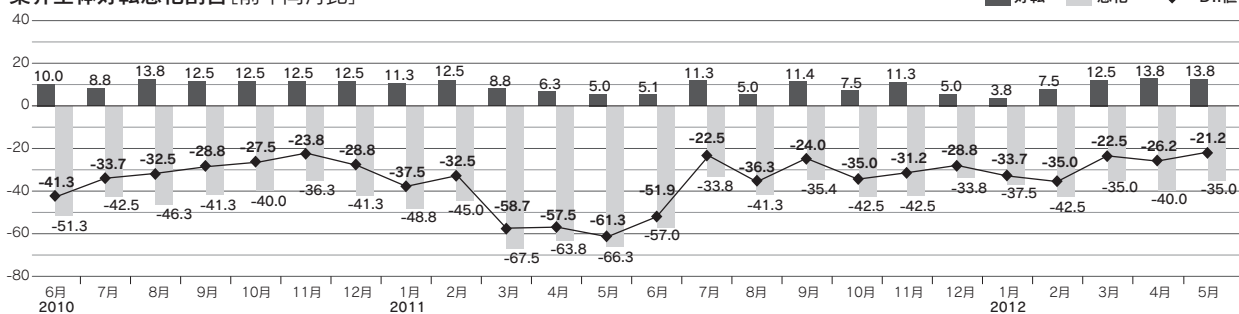
項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
業種	製造業	非製造業	製造業	非製造業	製造業	非製造業

【凡例】

 [天気図の見方] 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



業界の声

菓子製造	取引先スーパーでは、単価が安ければどこからでも仕入れるなど、価格競争が激しく、し烈を極めている。
二ツト	都内百貨店を中心に、夏物セール開始時期を例年より遅らせる傾向が見受けられ、5月に入ってもいくつ追加発注があった。
一般製材	円高が進み、外材安に押されて国産材市況は悪化している。全国各地に地域型住宅ブランド化事業を立ち上げているが、どの程度の仕事量があるかはわからない。
印刷	官公需は入札物件も含め発注件数、受注件数、金額とも昨年より落ち込んだ。民需も商業チラシ印刷等、件数、ロット共減少が続いている。
生コン	5月の出荷数量は前年同月比136.7%。4～5月累計で前年比127.6%。前年の落ち込みの反動が要因。震災復興需要により原材料不足となっており、供給側から値上げを要請されている。
商業卸	日用雑貨・事務用品関係は、需要の停滞から売上は減少傾向にあり業況は依然厳しい。酒類卸売業の売上は、前年同期で増加しているが、一昨年の水準までには至っていない。サッシ・住宅機器卸関係では、震災復興関連工事による需要が継続している。
自動車販売	5月の新車販売台数は、登録自動車が1,949台(前年同月比152.9%)、軽自動車が2,402台(同160.0%)で、合計4,351台(同156.7%)であった。エコカー補助金・エコカー減税の効果で、引き続き好調な結果となった。
石油販売	ガソリン1ℓ当たり150円で前月比7円30銭引き下げ。軽油1ℓ当たり131円60銭で前月比4円の引き下げ、配達灯油は18ℓで1,747円で前月比57円の引き下げとなった。共に5週連続の引き下げとなっており、減販とマージンの悪化により苦戦している。
商店街	家電は節電型クーラーの売上げが好調で、従来型の分を埋め、前年並みの売上げとなった。「身の回り品」については今まで節約されていたが4月以降は売上げが順調に推移している。(秋田市)
自動車整備	自動車検査台数は対前年比で10.2%増加した。その要因は、自動車重量税改定によるものと考えられる。
電気工事	住宅着工件数は時期的に若干上向き傾向であるが、工事単価は下落している。公共工事は昨年より発注件数が多くなっている。特に、節電や災害時対策として、太陽光発電や蓄電池設備の一般住宅への設置に今後期待が持てそうである。
トラック	秋田発の荷物が少なく苦戦している。燃料価格は下がってきているが、採算的にはまだまだ厳しい状況にある。数量、収入とも前年同月対比で10%減少している。